

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2073100220		
法人名	医療法人 あさま会		
事業所名	グループホーム サンタクロース		
所在地	埴科郡坂城町南条657-1		
自己評価作成日	平成30年1月13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.nsvakvo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigvo=2073100220
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	株式会社マスネットワーク
所在地	長野県松本市巾上9-9
訪問調査日	平成30年3月6日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

平成22年に現在の場所に移転。事前・事後の説明会及び運営推進委員会(2つの地区の区長さんに出席頂いている)などを通じ、“受け入れ態勢”“協力体制”共に、友好な関係を築くことが出来ていると感じている。 ほぼ毎日買い物に出掛けており(隣町へ)、地域交流の機会として、日頃から店員さんやお客さんに声を掛けて頂けている。また、道を挟んでスーパーマーケット(生鮮食品は少ない)があり、日用品に関しては、歩行可能な入居者をはじめ、車椅子使用の方でも“買い物”“散歩”などの外出が可能な環境がある。 『笑顔・安心・安全・家庭的』をスローガンとし、入居者お一人おひとりの「持てる力を活かすケア」を心掛けている。また、平成27年9月より、スタッフの“腰痛予防”“長期就労の実現”の為に、県内初となる“介護用ロボット「HAL」”を導入するなど、“働く場”としての環境作りにも努めている。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

12年間の実績があり、地域の方がたの協力も得られ、良好な関係が築けている。又、環境もよく近くにスーパーがあつたり、地区の消防の拠点があつたり、日常の買い物や災害時の対応等、安心できる立地になっている。事業所のスローガンである「笑顔 安心 安全 家庭的」を常に意識し、ケアに努めているベテランの職員の姿が印象的だった。利用者が施設内での生活だけでなく、地域の中に溶け込めるよう、出来るだけたくさんの外出の機会を作り、又施設内では、利用者一人ひとりが役割をもち、自然に作業をしている様子も見られた。介護ロボットの導入も行い、職員の健康にも配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(A)					
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	①ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
		☐	②利用者の2/3くらいが		
		☐	③利用者の1/3くらいが		
		☐	④ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
		☐	②数日に1回程度ある		
		☐	③たまにある		
		☐	④ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	①ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
		☐	②利用者の2/3くらいが		
		☐	③利用者の1/3くらいが		
		☐	④ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	①ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)
		☐	②利用者の2/3くらいが		
		☐	③利用者の1/3くらいが		
		☐	④ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	①ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
		☐	②利用者の2/3くらいが		
		☐	③利用者の1/3くらいが		
		☐	④ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	①ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
		☐	②利用者の2/3くらいが		
		☐	③利用者の1/3くらいが		
		☐	④ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	①ほぼ全ての利用者が		
		☐	②利用者の2/3くらいが		
		☐	③利用者の1/3くらいが		
		☐	④ほとんどいない		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
ユニット名(B)									
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔・安心・安全・家庭的」をスローガンとし、共有の理念を持っている。	開所当初の職員全員で考えたスローガンを現在も受け継ぎ大切にしている。日々のケアや会議等で必ずスローガンに立ち返る大切さを確認し、職員にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩など日々の交流はもとより、運営推進会議などを通じ、地域行事への参加のお誘いを頂いたり、ホーム行事へのお誘い、防災訓練などへ協力依頼なども行っている。	地区のボランティア(車いすダンス、フラダンス等)や、地区の行事(どんど焼き、獅子舞等)にも誘いがあり、利用者も楽しんで参加している。まゆ玉を届けてくださったとの話もうかがえた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域へ出掛ける機会(お花見、外食、ドライブなど)を通じ、交流を図ることで事業所の活動を知って頂けるよう努めている。また、法人は「松本山雅FC」の公式サポーター及び、支部長をしており、スポーツと医療・福祉を結びつける活動に力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	構成員に区長、民生委員、行政、御家族代表を招き、「入居状況」「インシデント・アクシデント」「行事などの活動」「防災訓練について」などを報告し、意見・要望を伺っている。また、可能な範囲で意見を取り入れている。	2ヶ月おきに、事業所の立地から2区の区長を始め民生委員、地域包括支援センター職員、家族の出席を得て開催されており、状況報告や、要望等意見交換をしている。年1回「ふれあい広場」を開催し、利用者や家族、地域の方との交流も行われ、生の声を運営推進会議のメンバーが把握出来るような場も設定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、不定期ながら月に数回程度は行政窓口へ伺い、或いは電話等で連絡するなど、担当者との情報交換を行っている。	利用者の入退所の報告や、状況報告を行い、密に情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「防犯対策」として「施錠(オートロック)」はあるが、これについては外出の機会を増やしたり、気候の良い時期は開けておくなど、出来るだけ開放するように努めている。また、対応困難なケースについても、スタッフ・御家族と話し合い、身体拘束に当たらないケアを心掛けている。	現在、身体拘束は行われておらず、職員が身体拘束による利用者の苦痛も理解している。また、玄関の施錠は行っているが利用者に閉塞感を与えないよう開放出来るときは出来るだけドアを開けている。また、外出の機会も多くしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者の身体状況やおかれている状況についての把握に努め、対処法などスタッフ全員で考え、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、御家族や関係者と話し合う場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	出来る限り、意見・要望を伺い、理解と納得、同意の上で入居して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族等の面会の際には、極力スタッフから声を掛けるように努めている。また、重要事項説明書記載の“外部の相談窓口”の紹介・説明を行っている。更に、運営推進会議などにおいても、意見・要望を伺っている。	面会時や、運営推進会議等で、ご家族の意見要望を聞き、迅速に対応している。実際に職員の名前と顔が一致しないとの要望に対し、号外のホーム新聞で全職員を掲載し、理解を得たとの話があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各会議や法人代表との個別面談(可能な場合、管理者とも個別面談あり)において意見・要望を聞くように努めている。	年1回法人代表との個人面談があり、要望を伝えることが出来る。又管理者とは日頃より、話せる関係が築けており、要望等迅速に対応しケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人代表は、管理者とのミーティング(月1回)や個別面談(年1回)、不定期訪問(月1回)を行い、個々が向上出来るよう状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各種研修会など積極的に告知し、参加を促している。また、参加後の報告(レポート、会議の場で報告、勉強会の開催など)を通じ、知識や情報が共有されるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	連絡会への加入や近隣の事業所との連絡を通じ、情報の交換などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御本人・御家族からの聞き取りを基に、安心確保に努めている。また、希望があれば体験入居などを行い、御本人・御家族にとって入居がスムーズに行えるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	同上。 御家族など面会の際には、話しやすい場所（リビング、居室、廊下ソファなど）を設けたり、傾聴する姿勢で接するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に見えた際、現在の状況や御希望を伺い、必要があれば、他のサービス（法人内 居宅介護支援事業含む）を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは御本人にやって頂くこととし、御本人の“出来る力”を引き出すよう努めている。また、自立度の低い方には、刺激となるような会話や活動の機会を設けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、担当スタッフが“今月の様子”を簡潔にまとめた手紙を作成し、請求書と共に送付している。また、緊急時・必要時には電話やメールにて連絡を取るようにし、情報の交換・共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者によっては対応困難な場合もあるが、御家族の協力やホーム側の対応で可能な場合には、地域との関わりも含め、御本人の“生活のスタイル”が継続出来るよう支援している。	好きな読書が出来るよう図書館に行ったり、馴染みの美容院に行ったり、利用者の意向に合わせ、対応している。又、家族の協力を得ながら花見のついでに、家の周辺をドライブしたり、以前に行った場所に連れていくこともして、馴染みの関係の継続に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食卓や外出の際、グループ分けなど工夫し、孤立しない、且つ関わり過ぎない関係が築けるような支援を心掛けている。また、ユニット間を行き来することで、場面の切り替えや、良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	見掛けた際には声を掛け、失礼にならない程度に現在の状況を伺うなど、関係が継続されるよう努めている。(利用が終わった後でも、御家族より野菜やお米を頂くこともある)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人・御家族からの聞き取りを基に、時には(必要に応じ)御家族や主治医とも話し合いの場を設け、理解や協力を求めるなど、本人本位の生活が営めるよう支援している。	本人や家族 主治医より生活歴を聞き情報を得て、趣味等を提案している。又把握が困難な方には、仕草や表情等で気持ちを察し、出来るだけ利用者本位のケアになるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御本人・御家族からの聞き取りを基に、毎日の生活の中に取り入れられるものは取り入れ、今までの生活環境となるべく変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌、個人記録、申し送りなどから、心身の状況を把握し、趣味や役割として“出来るコト”、また“目標”などを設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的(3か月毎)、及び臨時でカンファレンスを開催し、入居者本位のケアプランが作成出来るよう話し合っている。また、御家族とは面会時などを使って希望を伺い、プラン作成時には同意(サイン)を頂いている。	担当制になっており、担当が実施記録を基に、具体的な状態を把握し、モニタリングを行い、毎月のカンファレンスで職員全員が参加し評価、課題の抽出を行い、家族本人の意向をふまえ、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のちょっとした心身の気付きも記録に残すよう心掛けている。また、簡潔で読み易い文章を心掛け、スタッフ間の情報が共有出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	空き部屋を利用し、自主事業として“一時預かり”を受け入れたり、希望があれば各学校機関より“就業体験”を受け入れるなど、事業所として様々なニーズに対応すべく、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物・散歩の際、近隣住民と顔馴染み生まれ、花や野菜を頂いたり、地域行事に誘って頂けるなど、ホームの存在が認知されつつある。また、防災訓練の際、区長・消防団を始め地域住民にも参加・協力して頂けるような体制を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、御本人・御家族と相談の上選定し、専門科の紹介については主治医や協力医より紹介して頂くなど、適切な医療・継続的な関係が築けるよう、報告・連絡・相談をしながら支援を行っている。尚、現在は4つの医療機関に往診をお願いしている。	入所時、本人家族の意向を確認し、今までのかかりつけ医が継続できるようにしており、現在は4つの医療機関がかかりつけ医として往診も行っている。事業所とかかりつけ医が直接情報を共有できるための確な対応が出来る。又専門医の受診については家族の協力を得て行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医、各入居者の主治医と連携し、情報・気づきなどを伝え、適切な受診や治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各かかりつけ医や協力医の医師との連携を密にし、早期発見・早期治療、早期退院に向けた関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「看取り」「重度化」について話し合い方針を確認している。その後は、状態の変化などに合わせ、なるべく早い段階から御家族と相談し、適切な対応が行えるよう努めている。	入所時に家族、本人と看取り等について確認し、その後、重度化に伴い、法人医の協力を得ながら、主治医、家族、事業所と連携を取り、ご家族の納得のいく、看取りを支援するためのきめ細かな説明や提案をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員ではないが、消防署と相談し、研修(蘇生法・応急処置など)などに参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回(昼・夜)防災訓練を行い全職員が適切な消火、避難の方法を身に付けられるよう努めている。また、地域の方にもご参加頂き、都度、対応・対策について協議している。なお、全館SECOMの管理がされており、緊急対策をとっている。	年2回訓練の前に机上での確認を綿密に行い昼と夜に実際の訓練を行っている。地域の方には、避難後の見守りや、誘導を具体的に依頼し、確実に協力していただける体制を作っている。居室ごとに誘導方法が記載されていた。又、事業所内でも自衛消防隊を作り、役割分担も出来ている。ベッドサイド、車いすの後ろに災害時用のタオルが用意されていた。	現在備蓄されているものもあるが再度検討し、用意されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	他人行儀にならず、且つ、赤ちゃん言葉や教育的・指示的な言葉遣いにならないよう“安心できる言葉遣い”を意識するよう努めている。また、個々の能力や状況に応じ、食事の際のテーブル配置、椅子の工夫を行っている。	利用者との距離を感じさせないフレンドリーで暖かい声かけをしていた。又職員同士で対応の仕方等検討し合い、家庭的な雰囲気醸し出すと共に、年長者であることを常に念頭に置いて接している姿が見受けられた。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定、自己表現が出来るように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	“一日が快適で、笑顔が多く見られる過ごし方”を日々思考しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみが出来るよう、御家族にも協力頂き、声掛け・支援を心掛けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー係があり、入居者の嗜好や郷土食、旬の食材を献立に取り入れるように心掛けている。また、下拵えから片付けまで“出来る力”を活かし、入居者にも“食”に参加して頂けるような支援を心掛けている。また、キザミやミキサー食にも対応している。	食事という大切な場面で、利用者一人ひとりが役割をもって活動している姿が印象的だった。昼は外注弁当で、朝夕は手作りの食事が提供され、行事食や季節食材を利用しメニューも工夫していた。又利用者の状態に合わせ、食事形態の配慮がなされていた。誕生会の赤飯、花見弁当等、食事を楽しむ工夫がされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量(自力摂取困難な方、著しく摂取量の少ない方)を記録し、栄養バランスが保てるように支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る部分は御本人に行って頂き、ブラッシングや口腔内をガーゼなどで拭うなど、必要な援助を行っている。また、「口腔ケア委員会」を立ち上げ、個々に合った用具を選定、使用するよう心掛けている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	可能な方には極力トイレでの排泄を促し、御本人の心身の状況に合わせパンツ(布・紙)を選んだり、トイレの声掛けやおむつ交換を行っている。また、昼夜でおむつ・パットの使用状況を変えるなど、個別の対応に努めている。	入所後すぐに排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。全介助の利用者についても2名体制でトイレでの排泄を促す等、トイレでの排泄を重要視している。状態によってポータブルトイレの使用も行っていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要な方は「排泄チェック表」を作成・利用し、下剤も併用・調整しながら、食物繊維や乳製品を摂って頂くなどの取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	グループ分けし、日替わりで入浴(週2回以上)して頂いている。時間については、目安はあるが入浴日に「午前・午後」「一人・複数」の希望を確認し、可能な範囲で希望に沿うよう努めている。	機械浴が設置され、あらゆる状態でも入浴できるよう整備されていた。また、ゆず湯、菖蒲湯等季節風呂での楽しみも提供している。入浴を嫌がる利用者に対しては、時間や声かけ等工夫し入浴を促している。二人で入りたいとの意向にも対応していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	御本人の生活リズムやその時の状態に合わせて休息・午睡を取って頂いている。また、居室には御本人の馴染みのある家具や寝具をお持ち頂くようお願いし、安心出来る空間作りにも配慮している。主治医と相談の上、極力、睡眠剤に頼らない睡眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局からの“お薬の説明”やインターネットを活用し、把握に努めている。また、各担当者は、服薬内容や副作用などについての把握にも努めるよう、指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	聞き取りや心身の状況を基に検討し、能力に応じて、個別の役割や楽しみ事が見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の買い物や散歩はもとより、町民祭などの地域行事、外食や図書館、ドライブなど、御本人の希望や社会との交流を目的とした日常的な外出の機会を設けている。	外出の機会を多く提供したいとの思いから、ほぼ毎日買い物(近所のスーパーの店員さんと利用者が馴染みの関係になっている)に出かけたり、時間の許す限りドライブ等に気軽に出かけている。(聖高原 東御市 千曲市の杏の里、紅葉狩り 花見他)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段は事務所にて管理しており、必要・能力に応じて(スタッフ同行し)金銭を使用している。また、入金(面会)の際には出納帳を御家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人・御家族の要望に合わせ、電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天気の良い日にはウッドデッキや玄関先に出て外気浴を行うことが出来る。また、ユニットを隔てる壁は可動式の為、行事やレクリエーションの際にはフルオープンにし、広い空間で過ごすことも出来る。壁には、行事の写真や季節に応じた壁画を作成掲示し、居心地の良い空間作りに努めている。	ウッドデッキが設置されており、天候のよい日は、外の空気に触れ、外気浴を行っている。ユニットの壁は、フルオープンになるため行事等は広い空間で過ごすことが出来る。フロアーには、季節の作品が飾られ、お雛様も飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング～洗面所～居室～他ユニットなど、建物内はフラットで自由に往来出来、ユニットを越えて、気の合った者同士で談笑するなど、思い思いに過ごすことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭環境にもよるが、家具・寝具・棚・飾り付けなどは統一せず、御本人の使い慣れた物、馴染みの物で揃えて頂くよう御家族にお願いし、“居心地”と“生活し易さ”を重視している。	本人の使い慣れた家具や、棚など置いてあり、落ち着いて安心できる居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関エントランス以外、建物内はフラット(バリアフリー)になっており、通常、入居者の移動に支障はない。また、整理・整頓の際には、可能な範囲で入居者にも参加して頂き、“安全の確保”“出来る力の発揮”に努めている。		

(様式4)

事業所名 グループホーム サンタクロース

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 3 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	13	災害に対する備蓄品(食材、備品など)が少ない。	災害に備え、様々な備蓄品の確保を行う。	関係法令及び指針に基づき、行政・地域と相談しながら、日常的な災害時の備蓄確保(食材、物品など)は、出来る限り努力する。 また、医師会のCBERNE2機構(法人理事長が加盟)やSECOM上信越(食材の備蓄あり)との協力や訓練なども検討中。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成してください。